

こちらへんで、一度総括しておきたい。日本は先進国で技術水準が高く、お金も潤沢で他の国々より何事も効率よく推進できるというイメージはなかっただろうか。

ところが、いざ蓋を開けたらワクチンがない、少しばかり入ってきても接種の順番がなかなか決められずに先を争って申し込まなければならない、というように、いったいどうしてしまったのかと国としての体をなしていないことに気づかされた。

緊急事態宣言が出されても、他の国と違って行政当局には命令権もなければ罰則を科すこともできない。政府や自治体は、ひたすら国民にお願いする他ない。これが日本のいいところだという見方もできるかもしれないが、さすがに緊急事態宣言は何回も出せば、もはや緊急ではなくなってしまう。

もしかしたら、日本は、いざというときに何もできない国になってはいないだろうか。いろいろな面で今まで国家としての備えを疎かにしてきたのかもしれない。

東日本大震災を振り返ってみる。大津波で大変な量の瓦礫が出た。片づけなくてはいけないというときに、潰れた車も私有財産のため持ち主の許可を得なくては勝手に処分はできないとなった。瓦礫となった車を動かすことすらできなかつたのである。

一方、仙台空港では、飛行機まで水浸しになって流された。しかし、その他の瓦礫を含めてアメリカ軍が1週間で片づけて飛行機が離発着できるようにした。空港が使えるようになり、物資を被災地に供給する拠点として機能し始めた。なぜそれができたのか。アメリカ軍は日本の細かい法律を無視して一気に対応したからである。

喉元過ぎれば熱さを忘れるというのは、日本人のわるいところで、いざ瓦礫が片づくとき、このことはすっかり忘れ去られてしまったようである。

日本はワクチンをつくることができないのだろうか。そんなことはないだろう。ワクチンをつくる能力があるにもかかわらず、つくってはいない。海外のメーカーにひたすらお願いをして、買いつけるしかない。

ICTをはじめ、デジタル化の遅れも露わとなった。おかげで、学校には一気に一人1台のタブレットが配置された。家にも持ち帰らせるようになる。

これらのことを見てくると、これが我が日本なのかと思えてくる。なぜこうなってしまったのか。政治や体制、組織の問題もあるだろう。一番は人なのではあるまいか。国づくりは人づくりである。人づくりとくれば、教育である。

30年も教員をやっていると、少なからず責任を感じてしまうのである。何か足りなかったのではないか。もっとこうすべきだったのではないか。そんなことを考えてしまう。今までの反省点に立ち、もっともっと物事を主体的に考えることができる人材、議論ができる人間、すなわち国民を育成する必要がある。

教育が果たすべき使命は重大である。技術立国から教育立国へ、そのくらいの気概がないと、この先も不安である。